

NAKA HARIMA

中播磨地域

地域ので元気みなぎる中播磨の農林水産業の実現

施策の展開方向

温暖な気候と豊かな農山漁村にめぐまれた中播磨地域において、安定的に農林水産業の経営を継続できるよう、農林水産業に携わる人々がこれまで以上に職業に誇りを持ち、いきいきと働くことができるよう活性化につながる取組を進めます。

主な取組内容

人と環境にやさしい農業の推進と 地域の特色・立地を活かした農業の展開



高設いちご栽培

主力の水稻・麦等の土地利用型作物を中心に、園芸作物として施設栽培となる葉物野菜、いちご等の生産を持続的に続けていくため、継続的な担い手の確保・育成のための体制づくりを支援します。有機農業については

意欲の高い生産者やグループの技術確立及び体系化を進め、地域と有機農業者が連携する持続可能な仕組みづくりを推進します。

また、策定された「地域計画」に基づき、担い手への優良農地の集積・集約化を推進し、担い手の効率的かつ安定的な農業経営の実現を支援します。

農地の未整備地域においては、農地整備事業を推進するとともに、整備後相当年を経過した地区においても、農地の大区画化等の整備を進め、更なる効率的な農業の実現に向け、スマート農業等にも対応する整備を進め担い手の確保につなげます。

資源循環型林業の推進と木材利用の拡大

林業経営に適した人工林において、森林施業の集約化、路網の整備や高性能林業機械の導入等を図り、搬出間伐に加え主伐・再造林を推進し林業経営の効率化・生産性向上



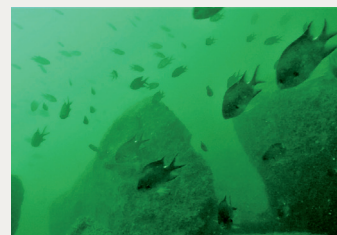
町内産木材を活用した図書館（神河町）

を図ります。木の良さを体感できる場として、図書館・認定

こども園等の教育施設や介護施設など市町と連携し、公共施設や民間非住宅建築物の木造・木質化を推進します。

豊かな海と持続的な水産業の実現

「豊かな海の再生」を実現するため、漁業者による海底耕うんやカキ殻散布等をはじめとした豊かな海創生活動による底質改善や浅場、藻場等の生物生息環境の保全・回復等の取組を推進します。



石材礁に集まる魚群

また、海域の生産力の底上げを目指し、家島諸島周辺海域に魚介類の産卵・育成場（藻場）等の機能を有する地元石材を活用した増殖場の整備等を推進します。



カキのシングルシード養殖

さらに、収益性の高い養殖業の確立を目指し、カキ等の二枚貝やサケ科魚類（ローカルサーモン）の新技術の開発と普及を総合的に推進します。

ブランド力を活かした攻めの農林水産業の展開

農林漁業者等が自らブランディングを行っているぼうぜ鯖・華姫さわら・ゆず・網干メロン・姫路のれんこん・もち麦・太市のたけのこ等の地域特産物について、認証食品と併せてPRすることにより、有利販売・販路拡大に結びつくよう推進します。



(写真左)ゆず、(写真右)網干メロン

農山漁村の防災・減災対策の推進

近年の局地的かつ記録的な集中豪雨等の自然災害から安全・安心な生活を確保するため、ため池の「定期点検」や「耐震調査」等の実施結果を踏まえ、防災・減災対策上、緊急性が高いと判断されたため池については早期改修に努めます。



ため池の防災点検

山地では山地災害危険地区の着手率を向上させ、治山ダム等の重点整備を進める等、「山地防災・土砂災害対策」を推進するとともに、森林整備事業を積極的に実施し、

健全な森林を育成することにより、森林の公益的機能の維持増進を図ります。

漁港では、生産・流通機能の強化のため施設整備を推進するとともに、老朽化した施設の長寿命化を計画的に推進します。また、近い将来に発生が懸念される南海トラフ地震や近年の気候変動による影響を考慮し、津波や高潮などの自然災害から地域住民の生命や財産を防護する防災対策を推進します。

「農」と多様な分野との連携強化

域内における「中播磨農福連携協議会」を通じた情報発信や農業と福祉のマッチングの取組を進めます。農福連携技術支援者による農業技術、作業支援等の充実を図り、新たなチャレンジとして漁業、林業分野での連携を推奨します。

漁協が運行させる大型漁業見学船を活用した漁業見学体験ツアー、漁協やカキ生産者の直売所や定期的で開催される日曜日等による「播磨のさかな」の魅力発信や地元水産物を活用した加工品の開発等により来訪者と地域水産物のファンを増やす取組を支援します。



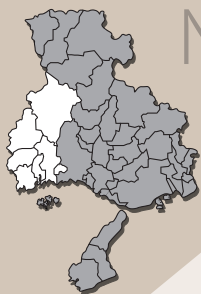
農業と福祉のマッチングの取組



姫路市農林漁業まつりへの出店

成果指標

指標名	R6年度 (現状)	R12年度 (中間目標)	R17年度 (目標)
みどり認定取得経営体数(件)	3	15	30
土地利用型作物におけるドローン(防除、施肥、播種)活用面積(ha)	239	300	500
野生鳥獣による農林業被害額(百万円)	49	39	31
山地災害危険地区の着手状況(箇所)	509	539	564
漁場環境改善面積(ha)	310	322	328
生産性の向上や管理の省力化が図られた農地面積(ha)	295	355	405
ため池防災工事により安全性向上に着手した箇所数(箇所)	22	53	78



NISHI HARIMA

西播磨地域

豊かな「水」と「緑」に育まれた個性輝く農林水産業

施策の展開方向

豊かな「水」と「緑」に育まれた多様な気候・風土、多彩な農林水産物が魅力の西播磨地域では、農林水産物の生産活動を多様な人材が持続的に「個性輝く農林水産業」の実現を目指します。

そのため、地域の特色を活かした産物の生産振興、土地利用型作物などのスマート農業の推進、耕畜連携など環境と資源循環に配慮した農業の展開、さらには都市住民や障害者など多様な人々の参画による次世代の担い手確保を進めます。

また、地域の暮らしを守るため、集落ぐるみの活動により、農業用施設や里山等の地域資源の保全、ため池や山地災害、高潮・津波等に対する防災・減災対策を推進し、安全で安心な農山漁村づくりを進めます。

主な取組内容

人と環境にやさしい農業の推進と 地域の特色・立地を活かした農業の展開



西播磨での就農を促すガイドリーフレット

西播磨地域全体で人と環境にやさしい農業を展開するため、地域に適した農業生産の確立、病害虫対策技術の改善、地域資源を活用した有機農業の実践などを支援します。あわせて、環境への配慮や食文化への理解を深める食育を推進します。

また、省力化と高品質生産を図るスマート農業の推進に向け、土地利用型作物におけるドローンや高性能草刈機、畜産における分娩管理システムなどの導入を進めます。あわせて、限られた労働力でも効率的な生産が可能となるよう、スマート農機の活用を高める農地の大区画化やパイプライン化等を推進します。



大区画化水田での自動運転田植え作業

地域農業を担う人材の確保・育成に向けては、就農希望者への相談から定着まで一貫した支援を行うとともに、「地域計画」の定期的な見直しを通じて、担い手への農地集積を促進します。

さらに、法人化の推進や収益性の高い作物の導入、6次産業化などにより、経営の規模拡大・複合化・高度化・多角化を支援します。

資源循環型林業の推進と木材利用の拡大

森林資源の循環利用と林業経営の効率化を図るため、林道・作業道の開設、既存林道の機能強化や維持管理に取り組みます。また、近畿有数の原木取扱量を誇る木材市場を中



集まれ林業男子・林業女子

心とした県産木材の流通体制を強化するとともに、大規模製材工場を最大限に活用した効率的な加工による競争力のある生産・流通体制の確立を進めます。

さらに、次代を担う林業就業者の確保・育成に向け、森林大学などと連携し、技術力や安全性の向上を支援します。あわせて「集まれ林業男子・林業女子」の取組を通じ、若い世代に林業の魅力を発信し、仕事への関心を高めます。

ブランド力を活かした攻めの農林水産業の展開

食品関連産業や観光業との連携により、生産から消費までを見通した戦略を構築・実践することで、国指定野菜産地の持続的な発展と醤油醸造用小麦、落花生など地域に根付いた農産物のブランド化を図ります。

兵庫県認証食品や西播磨フードセレクション受賞食品の生産者と実需者とのマッチングを進め、生産・流通の拡

大につなげるほか、HACCPに基づく生産やGIを活用したブランド化に取り組みます。



生産者と実需者を結ぶ交流会
西播磨FOOD MEETING

農山漁村コミュニティづくりによる 地域資源の管理

疏水の保安全管理や「田んぼダム」など、多面的機能の維持・発揮に向けた活動を進めます。また、複数集落の農家や非農家が連携し地域を運営する農村RMOを育成し、地域コミュニティの整備・強化を図ります。さらに、絵画コンクールを通じ、将来の西播磨を担う青少年の郷土愛を育みます。



絵画コンクール審査風景

野生動物による農林業への被害に対し、誘引物の除去や獣害防護柵の設置など集落ぐるみの被害対策を強化することで出没抑制を図ります。

農山漁村の防災・減災対策の推進

局地的豪雨等の異常気象による災害発生リスクの高まりに対し、危険性の高いため池の改修や廃止、農業用河川工作物の整備を早急に実施するとともに、適正な管理方法や避難対策などを周知します。

山地防災では、治山ダム等の溪流対策や山腹崩壊・落石対策、地すべり防止対策を実施するとともに、既存施設の点検・維持修繕により長寿命化を図ります。



防災パトロール

漁港では、施設整備や老朽化施設の長寿命化を計画的に推進し、気候変動等により発生する津波や高潮などの自然災害からの住民の生命・財産の防護対策を進めます。

「農」と多様な分野との連携強化

農業の働き手の確保と福祉分野の就労機会の拡大による地域社会の持続的発展に向け、県、市町、関係団体が一体となり農福連携の拡大を進めます。



農政・福祉部局が集合した農福連携推進会議

また、農業者とアルバイトマッチング事業者との連携による農繁期の労働力確保や、観光業との連携による農林水産物の販売促進と交流人口の拡大を進め、多様な人材の農林水産業への関わりを広げていきます。

成果指標

指標名	R6年度 (現状)	R12年度 (中間目標)	R17年度 (目標)
土地利用型作物のドローン防除実施面積 (ha)	1,125	1,600	2,000
素材生産量 (千m ³)	115※	138	158
兵庫県認証食品認証数 (食品)	500	525	550
西播磨フードセレクション選定数 (食品)	73	79	85
新たな「田んぼダム」取組面積 (ha)	2,169	2,615	3,060
ため池防災工事により安全性向上に着手した箇所数 (箇所)	25	79	99
山地災害危険区域の防災工事の着手箇所数 (箇所)	748	791	827
農福連携作業委託等件数 (件)	52	74	94

※ R5数値

但馬地域

自然と地域のつながりを育む但馬の農林水産業

施策の展開方向

但馬地域は、多様な特産農作物生産、広大な森林での林業、日本海での水産業が営まれ、特長あるブランド産物が県内外へ、一部は国外へも流通されています。一方で、就業者の高齢化率は高く、担い手の確保が大きな課題です。

そこで、ブランド価値の向上、生産基盤の整備、生産量の拡大を進め、生産者収益の向上を図るとともに、地域に適したスマート技術の実装や、地域内外から新規経営者や雇用就業者を呼び込む取組を強化することで、担い手の確保を進めます。

農業では、人と環境にやさしい農業の推進やブランド農産物の生産拡大を図ります。畜産業では、但馬牛の増頭を進めるとともに、堆肥広域流通など耕畜連携を推進します。森林・林業では、高性能機械導入、林道等の整備、スマート林業技術の導入を促進します。水産業では、資源の適正管理、環境変化に対応する生産基盤整備、技術導入を支援します。

主な取組内容

人と環境にやさしい農業の推進と 地域の特色・立地を活かした農業の展開



コウノトリ育苗農法機械除草

収益と但馬地域全体のブランド力の向上につながる「コウノトリ育苗農法」の取組面積を拡大するため、競争力の強い無農薬米への転換、掛かり増し経費の支援、収量向上に向けた栽培

暦の再検討、労力負担の大きい除草・追肥作業の農業支援サービス事業者への委託や省力化技術の実証を進めます。

有機農産物の生産拡大のため、地域に適した有機栽培技術の確立、学校給食での活用拡大に向けた連携を支援します。

新規就農者等の確保に向け、所得を確保できる経営モデルの確立、「就農・定着応援プラン」作成支援、就農希望者と地域の結び付け等、地域ぐるみの受入体制の整備や但馬での就農を促すPR、第三者継承の仕組みづくりに取り組めます。



自然圧パイプラインの導入

効率的な営農のため、農地の大区画化、自然圧パイプラインの導入、排水路の管路化など地域・担い手のニーズに応じた農地整備や、自動給水栓の導入、リモコン式草刈機のための法面

緩傾斜化などスマート技術の導入を進めます。

「地域計画」の地域間連携や広域化を推進し、活用すべ

き農地の明確化、計画に基づき農地中間管理事業を活用した農地の担い手への集積に取り組みます。

需要に応える持続可能な畜産業の推進

但馬牛増頭に向け、新規参入希望者や規模拡大農家向けの牛舎整備、自給飼料拡大によるコスト低減、飼養環境改善やスマート技術導入による子牛の発育改善と市場価格の向上



堆肥と交換する稲わらの集草

による農家所得向上に取り組めます。

閉鎖育種の維持・継続をしながら、但馬牛の遺伝的多様性確保のため、希少系統の保留を支援します。

放牧、稲わら、牧草などの利用による自給飼料基盤の強化、糞尿処理、堆肥還元による地域資源循環につながる持続可能な耕畜連携システムの確立に取り組めます。

畜産物の販売促進や観光客誘致など地域振興につなげるため、世界農業遺産に認定された「人と牛が共生する美方地域の伝統的但馬牛飼育システム」の魅力を広く発信します。

資源循環型林業の推進と木材利用の拡大

スギ・ヒノキ等の主伐による搬出と再生林による資源循環型林業の確立に取り組めます。伐採・搬出作業の安全・効率化のため、林道の機能強化や架線集材システムの導入を進めます。

分収林解約地等の森林経営管理制度の拡大に向け、新たな支援組織「兵庫県森づくり支援センター」と連携して更なる市町支援を行います。



ドローンによる除草剤散布

林業の担い手確保のため、高校への出前講座や現場体験、県立森林大学のPR、計測技術のデジタル化やドローン等スマート林業技術の活用による省力化に取り組みます。県産木材利用拡大に向け、TAPOS等新技術の普及や公共施設等の木造・木質化を支援します。

豊かな海と持続的な水産業の実現

豊かな海の再生に向け、産卵親魚の保護や稚魚育成の場となる増殖場や魚礁漁場の整備、マダイ等海域に適した種苗放流、磯焼けをもたらすムラサキウニ駆除を推進します。



産卵親魚や稚魚育成の魚礁

海洋環境モニタリングや資源調査に基づく漁獲可能量設定、漁業者の自主的な保護区設定や休漁等、環境変化に順応した漁獲管理を推進します。

経営力強化のため、沖合漁業漁船の高鮮度保持・品質高度化設備の整備、省エネ型漁船・機関導入の支援や、スルメイカ等の漁場形成情報の提供、磯焼け対策で捕獲したウニやドスイカなどを原料とする加工品開発への支援に取り組みます。

漁業の担い手確保のため、就職説明会等への出展、現場研修への支援、外国人受入れを進める経営体への指導、漁船の居住・作業環境改善への支援を行います。

ブランド力を活かした攻めの農林水産業の展開

コウノトリ育むお米、たじまピーマン、朝倉さんしょ、岩津ねぎ、なしおとめ、美方大納言小豆などの特産物の安定生産技術の確立、6次産業化に取り組むとともに、希少性や品質面の特徴を伝える県内外消費地での販売促進PR、SNSによる国内向け情報発信、輸出等の取組を強化することでブランド力の向上を進めます。

成果指標

指標名	R6年度 (現状)	R12年度 (中間目標)	R17年度 (目標)
コウノトリ育む農法取組面積 (ha)	649	730	800
主伐材供給量 (m ³)	8,500	13,000	17,000
自然圧パイプライン地区数 (地区)	4	6	8
沖合漁業の産出額 (百万円)	9,508*	9,603	9,699

※ R5数値

農山漁村コミュニティづくりによる地域資源の管理

高齢化が進む地区住民も継続的に獣害対策を進められるよう、県民局獣害対策チームを中心に、ICT技術を活用した効率化・省力化、トレイルカメラによる加害動物調査、金網柵と電気柵の複合柵導入を推進し、スマート獣害対策モデルを確立します。シカ、イノシシ等には野生動物ごとの管理計画に基づき、捕獲等による適正な個体数管理と被害対策を実施し、出没が増加しているクマには、不要果樹伐採等の出没抑制対策や人身事故防止に向けた啓発活動を強化します。

農山漁村の防災・減災対策の推進

ため池管理者への講習会、漏水等の定期点検に基づく簡易補修や低水位管理、リスクの大きいため池からの優先的な改修・廃止工事などにより、ため池の適正管理と決壊の未然防止に取り組みます。また、豪雨や大規模地震によるため池決壊に備えたハザードマップの周知、ため池のリアルタイムの水位や映像をスマートフォンで確認できる「ため池監視システム」の導入促進に取り組みます。

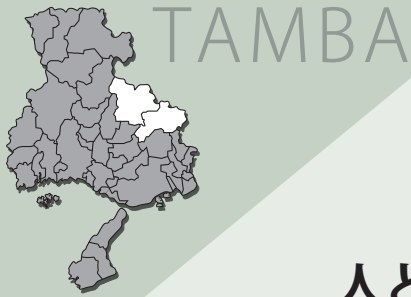


ため池廃止(養父市)

山地では、土砂流木の流出を防止する治山ダム等の溪流対策工事、土留工・落石防止柵等の山腹工事、集水井・アンカー工等の地すべり対策工事と長寿命化対策を実施します。海岸部では、防潮壁の老朽化対策や気候変動を考慮した機能強化を推進します。

県民とのつながりで育む食と「農」

但馬の特産農林水産物の認知度向上と消費拡大のため、品質特性や産地に関する情報を県民が「学び、体験して、知る」機会を創出します。



TAMBA

丹波地域

人と自然がともに生きる、丹波の農山村づくり

施策の展開方向

地域の農畜産物の強みと魅力を活かした持続的な農業の展開に向け、スマート農業の推進、担い手育成、気候変動に対応した生産の安定化等を進めるとともに、丹波地域のブランド農畜産物の新たな価値の創造や地域に関わる様々な人材との連携を進めます。

また、林業・木材産業の活性化に向け、豊富な人工林資源が成熟化する中、利用間伐や発電用バイオマス利用を推進するとともに、森林の公益的機能の低下を防止するため、人工林の間伐や里山林整備等、災害に強い森づくりや治山事業を進めます。

さらに、集落機能が維持保全された活力ある安全・安心な農山村の実現に向け、集落ぐるみの活動を活性化させ、獣害防止やため池改修等の防災・減災対策の計画的な実施を進めます。

主な取組内容

人と環境にやさしい農業の推進と 地域の特色・立地を活かした農業の展開

丹波篠山市と丹波市は「オーガニックビレッジ」を宣言し、有機農業の推進に地域ぐるみで取り組んでいます。新規就農者には、地域就農支援センターを中心に技術習得や資金調達、販売先確保などを支援し、早期の経営基盤確立を目指します。

環境創造型農業に地球温暖化の防止に貢献する取組を加えた、人と環境にやさしい農業を推進するとともに、有機資材を活用した土づくりやスマート農業技術を組み合わせ、環境保全とコスト低減・品質向上を図ります。



黒大豆の防除で活躍するドローン

農業基盤整備では、大区画化や排水路整備によりスマート技術導入を支援し、老朽施設については長寿命化を図ります。

地域計画の早期実現に向け、農地中間管理事業の推進を通じ、多様な担い手への農地の集積・集約化を推進します。

集落営農では統合・再編や連携を促進します。集落営農組織や大規模経営体の連携による作業受託支援サービスを拡充し、獣害対策の環境整備を進めるなど、中小規模農家の営農が継続され、産地の営農活動が面的に維持されるよう支援します。

優良種子の安定供給や高温少雨下での栽培技術の確立と基本技術の徹底により、生産性と競争力を強化し産地及び担い手を育成します。認定農業者には経営改善計画の支援を行い、女性や移住者など多様な人材の参画を

支援し、法人化や6次産業化も推進します。

企業の農業参入には地域との調整や農地のあっせんを支援し、農産加工や6次産業化実践者には商品開発や経営力向上を支援します。



用水路を管路化し遠隔操作型自動給水栓を設置(丹波市)



消費者や実需者ニーズが高い丹波栗

資源循環型林業の推進と木材利用拡大

「丹波の森宣言」に基づき、環境と調和した林業を推進します。リモートセンシング等で林地を集約し、森林作業道の整備を進めることで作業の効率化を図ります。また、県産木材の利用拡大に向けて、流通体制の強化や公共施設等の木造・木質化を進めます。



高性能林業機械による木材の搬出

ブランド力を活かした攻めの農林水産業の展開

黒大豆・小豆・山の芋・栗などのブランド農産物の魅力発信と販路拡大を戦略的に推進します。市・JA・実需者・観光関係者と連携し、認証取得の誘導、メディア活用、イベント開催、商品開発支援、輸出促進などを展開していきます。

農山漁村コミュニティづくりによる地域資源の管理

人口減少や高齢化により地域機能が弱まる中、農業や生活インフラの維持、食品アクセスの確保などを支援し、農村RMOの形成を促進します。都市近接の利点を活かし、定住・二地域居住や都市住民との農業交流(CSA)を推進します。獣害対策ではICTを活用したスマートモデル集落を整備し、効率的な防護と捕獲を図ります。特定外来生物(クビアカツヤカミキリ、ナガエツルノゲイトウ)については、新たな地域への侵入や侵入地域での増殖拡大を防ぐため、農業者等への啓発や防除対策技術の普及に取り組めます。農業用施設の保全には地域ぐるみの活動を支援し、「ため池保全県民運動」も推進します。都市住民や学生による農村ボランティア活動も促進し、地域コミュニティの活性化を目指します。

農山漁村の防災・減災対策の推進

ため池の決壊による災害を防ぐため、管理者講習会や定期点検を通じて管理技術の向上を図り、老朽化したため池は計画的に改修・廃止します。住民へのハザードマップ周知や



改修したため池(丹波篠山市)

事前放流の推進により避難体制を強化します。山地災害危険地区では治山ダムや斜面对策を重点的に整備し、毎年6月を「豊かなむらを災害から守る月間」として点検・啓発活動を行い、災害の未然防止に努めます。

豊かな森づくりの推進

健全な森林づくりを目指し、「新ひょうごの森づくり」により間伐などを適正に実施します。県民緑税を活用し、防災機能を高めるための各種森林整備を推進するとともに、マツ枯れやナラ枯れに対しては公益的機能の高い森林を対象に予防・駆除対策を進めます。

「農」と多様な分野との連携強化

農福連携の推進に向けて、農業経営体への情報発信と福祉事業者との連携を強化し、障害のある方の社会参画を促します。あわせて、農業者が商工業者と連携して取り組む丹波地域のブランド農産物等を活用したマーケットイン型の新商品開発等の取組を支援します。また、ひょうごオープンファームの取組など地域資源を活用した交流を推進します。



福祉事業所利用者による山の芋の収穫作業

県民とのつながりで育む食と「農」

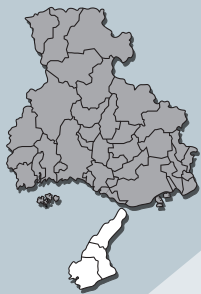
丹波地域における農産物の直売活動を支援するため、新たな施設や備品の整備、生産活動の開始・拡大に必要な機械・資材の導入を支援し、出荷量の増加と品質向上を図ります。また、県産県消の推進に向けて販売体制や品揃えの強化を行います。

さらに、市民農園やオープンファームなどの「楽農生活」実践施設の開設・改修を支援し、農林水産業や農山漁村への理解を深めます。これらの取組の情報発信を通じて、楽農生活の意義への理解促進と実践のきっかけを創出し、農林水産業に関わる人材の裾野拡大を目指します。

成果指標

指標名	R6年度 (現状)	R12年度 (中間目標)	R17年度 (目標)
丹波栗栽培面積(ha)	194.9	200	205
丹波黒大豆単収(整粒、kg/10a)	40.5	100	130
丹波大納言小豆生産量(JA集荷量、t)	45	200	250
間伐及び主伐実施面積(ha)	530*	580	630

※R4～R6平均値



AWAJI

淡路地域

人と自然が調和する「食の宝島・あわじ」の推進

施策の展開方向

淡路島は、瀬戸内地方特有の温暖な気候に恵まれていることから、その気候風土に適した農林水産業が古くから営まれ、全国の食料基地としても重要な役割を果たしてきており、農林水産業産出額は、県内の約2割を占めています。

また、淡路島は都市と農村の交流や体験型の観光開発が進んでおり、今後、神戸空港の国際化等に伴い、これまで以上に国内外からの観光客の増加が見込まれます。

一方、農林水産業では、人口減少に伴う労働力不足のため、担い手の確保が高齢化による離職に追い付かず、農林水産業従事者の減少やこれまでの経験が通用しない気候変動等により生産力の維持が難しくなっています。また、漁場環境の悪化に伴い、漁獲量、養殖生産量は総じて減少傾向にあります。

このため、農林水産業の生産力の維持に欠かせない担い手の確保や生産性向上に対応するための機械化や農地整備、新たな技術導入等の一体的な推進や漁場の環境整備、森林保全をより一層進め、さらには、自然豊かな大地と海の恵みを活かし、古来より朝廷に食材を献上してきた「食の宝島・あわじ」として、食材のブランド価値向上と魅力発信を進めます。

主な取組内容

人と環境にやさしい農業の推進と地域の特色・立地を活かした農業の展開

淡路島は、水稲と露地野菜の三毛作栽培と畜産の連携により資源を循環させることで農業を発展させてきた歴史があることから、安全で高品質な食料の持続的な生産を進めることを理念とした人と環境にやさしい農業をより一層推進します。

また、高齢化や担い手不足に対応しつつ、高品質な生産が継続できる環境づくりのため、環境データ計測機器やドローン等の活用等、農業・畜産業・林業・水産業等の幅広い分野において、地域の実情に応じたスマート化を進めます。



たまねぎのドローン施肥

さらに、関係機関がしっかりと連携体制を構築し、地域計画の実現に向けて、農地中間管理機構や農地整備等の基盤整備により、担い手への農地の集積・集約化を進めるとともに、農地整備に際しては、北部の稲作中心の中山間地や南部の三毛作が盛んな平野部といった地域ごとのニーズに沿った整備を進めます。

需要に応える持続可能な畜産業の推進

「淡路ビーフ」、「神戸ビーフ」などの肥育素牛の生産拡大を図るため、繁殖管理ツールを活用した分娩間隔の短縮や規模拡大農家等に対して牛舎・機械整備や雌牛導入に必要な経費を支援することにより、効果的な増頭を図ります。



淡路ビーフ

豊かな海と持続的な水産業の実現

漁業者による海底耕うんや海底への施肥など、藻場や浅場の機能を維持・回復する取組を支援します。

また、ため池のかいぼりや森づくりなど、農業者等と連携した取組を推進します。



農業・漁業者の協働によるかいぼり

さらには、海域の生産力の底上げを目指し、魚介類の産卵・育成場や魚礁漁場の整備、河川の浚渫土砂を活用した浅場造成を推進するとともに、アオリイカ資源保護の取組等を支援します。

豊かな森づくりの推進

森林環境譲与税等を活用して、マツ林の再生整備などを進めるとともに、地域住民参画による里山林再生や森林ボランティア団体による森づくり活動など「新ひょうごの森づくり」による森林整備を推進します。



マツ林への薬剤散布

また、県民緑税を活用した「災害に強い森づくり」により集落裏山の森林整備や簡易防災施設の整備を行い、防災機能の機能強化を図るとともに、野生動物と人とのすみ分けをする緩衝地帯（バッファゾーン）の整備を推進します。

「農」と多様な分野との連携強化

生産者、観光業、食品産業関係者で構成する食のブランド「淡路島」推進協議会が中心となって、淡路島産食材を5割以上使用した飲食店である「こだわり宣言店」のPRや島内食品加工業者による淡路島産食材を活用した新商品開発、島内外におけるPRイベントや販路拡大を行うなど、淡路島産食材の魅力を発信します。



淡路島産食材「こだわり宣言店」のマーク

また、漁村地域の活性化のため、漁港施設を活用した水産物販売施設やレストラン、海洋環境学習施設、周辺海域での漁業体験など、海や漁村が有する価値や魅力を活かした「海業」を推進します。

成果指標

指標名	R6年度 (現状)	R12年度 (中間目標)	R17年度 (目標)
野菜生産量(t)	130,000	140,000	140,000
新規就業者数(農業)(人)	69	70	70
新規就業者数(水産)(人)	23	20	20
但馬ビーフ供給頭数(頭)	3,804	4,050	4,200
淡路島産品PRイベント来場者数(人)	14,643	19,000	25,000
兵庫県認証食品認証数(品目)	331	355	375
中山間地域等直接支払交付金の取組面積(ha)	2,238	2,250	2,250
多面的機能支払交付金に取り組む集落数(集落)	400	404	407
ため池防災工事により安全性向上に着手した箇所数(箇所)	23	74	104
楽農生活交流人口(千人)	2,003	2,200	2,300